

## 安全データシート

According to JIS Z 7253:2012  
改訂日 2018-6-28  
版 7.01

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	クペロン
製品コード	034-04901,032-04902,036-04905
CAS No	135-20-6
化学式	C6H9N3O2
製造者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 Tel: 06-6203-3741 Fax: 06-6201-5964
供給者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号:06-6203-2029
緊急連絡電話番号	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 03-3270-8571
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用
社名変更のお知らせ	2018年4月1日より、和光純薬工業株式会社から富士フイルム和光純薬株式会社へ社名を変更いたしました。

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物質又は混合物の分類

可燃性固体

急性毒性(経口)

発がん性

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分2 肝臓

区分2

区分3

区分1B

区分2

## 絵表示



危険

## 注意喚起語

## 危険有害性情報

H228 - 可燃性固体

H301 - 飲み込むと有毒

H350 - 発がんのおそれ

H373 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ: 肝臓

## 注意書き(安全対策)

- ・熱、火花、裸火、熱い面から離して保管すること-禁煙。
- ・受信装置と容器をしっかりと固定/接地する。
- ・耐爆電気/換気/照明/機器を使用すること。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
- ・個人用保護具を着用すること。

- 取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

**注意書きー(応急措置)**

- ばく露、もしくはその恐れがある場合、医師の治療を受けること。
- 再使用前に汚染された衣服を洗う。
- 飲み込んだ場合、すぐに毒劇物センターもしくは医師に連絡してください。
- 口をすすぐ。
- 火災の場合:消火には、二酸化炭素、粉末消火剤、フォームを使用する。

**注意書きー(保管)**

- 施錠して保管。

**注意書きー(廃棄)**

- 内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

**その他**

ほかの危険有害性 情報なし

**3. 組成及び成分情報**

純物質もしくは混合物 混合物

化学式 C6H9N3O2

化学名	重量パーセント	分子量	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS番号
アンモニウム N-ニトロソ フェニルヒドロキシルア ミン	=<100	155.15	(9)-2320	N/A	135-20-6

不純物または安定化添加剤 Stabilizer: Ammonium Carbonate

**4. 応急措置****吸入した場合**

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

**皮膚に付着した場合**

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

**眼に入った場合**

眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

**飲み込んだ場合**

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

**応急処置をする者の保護**

個人用保護具を着用すること。

**5. 火災時の措置****消火剤**

水スプレー(水噴霧), 二酸化炭素(CO2), 泡, 粉末消火剤, 砂

**使ってはならない消火剤**

利用可能な情報はない

**特有の消火方法**

利用可能な情報はない

**火災時の特有危険有害性**

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

**消火を行なう者の保護**

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

### 環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

### 回収、中和

利用可能な情報はない

### 二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

衝撃注意。火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

#### 注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 安全取扱注意事項

個人用保護具を着用すること。皮膚、眼、衣服との接触を避ける。熱、火花、炎、ほかの発火源から離して保管すること(例: 種火、電気モーター、静電気など)。

### 保管

#### 安全な保管条件

##### 保管条件

容器は遮光し、冷蔵庫(2~10°C)に密閉して保管する。

##### 安全な容器包装材料

ポリエチレン

#### 混触禁止物質

強酸化剤

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

### ばく露限界

この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物含有していない。

### 保護具

#### 呼吸器用保護具

防塵マスク

#### 手の保護具

保護手袋

#### 眼の保護具

側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)

#### 皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣

### 適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 形状

色	白色～うすい黄褐色
性状	結晶～結晶性粉末
臭い	特異臭
pH	データなし
融点・凝固点	163 °C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
燃焼又は爆発範囲	
上限:	データなし
下限:	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重・密度	データなし
溶解性	水: 溶けやすい。エタノール: やや溶けにくい。
n-オクタノール水分分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

安定性 光により変質するおそれがある。  
 反応性 データなし

危険有害反応可能性  
 通常の処理ではなし。

### 避けるべき条件

高温と直射日光, 熱、炎、火花, 静電気、スパーク、衝撃

### 混触危険物質

強酸化剤

### 危険有害な分解生成物

一酸化炭素(CO), 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>), 窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	199 mg/kg (rat)	N/A	N/A

化学名	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	ラットのLD50値として、199 mg/kg (HSDB (Access on May 2016)) の報告に基づき、区分3とした。データの追加により区分を変更した。	データ不足のため分類できない。	GHSの定義における固体である。

化学名	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	GHSの定義における固体である。	データ不足のため分類できない。	データ不足のため分類できない。

### 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。

## 呼吸器感受性又は皮膚感受性

化学名	呼吸器および皮膚感受性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	呼吸器感受性: データ不足のため分類できない。皮膚感受性: データ不足のため分類できない。

## 生殖細胞変異原性

化学名	変異原性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性である (NTP DB (Access on May 2016))。

## 発がん性

化学名	発がん性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	ヒトの発がん性に関する情報はない。実験動物ではラット及びマウスに78週間混餌投与後、各々28週間及び18週間観察した発がん性試験において、ラットでは前胃の扁平上皮細胞がん、肝細胞がん及び肝臓の腫瘍性結節、血管肉腫が雌雄に、ジンバル腺腫瘍が雌に認められた (NTP TR100 (1978))。同様に、マウスにおいても肝細胞がん (雌)、血管肉腫 (雌雄)、ハーダー腺の腺腫 (雌) など複数の臓器に腫瘍性変化がみられている (NTP TR100 (1978))。既存分類としては、NTPがR (Reasonably suspected) に分類している (Report on Carcinogens (13th, 2014))。以上、ヒトの発がん性情報を欠いているが、2種の実験動物の雌雄で多臓器に腫瘍発生が認められたことから、本項は区分1Bとした。

化学名	NTP	IARC	米国産業衛生専門家会議(ACGIH)	日本産業衛生学会
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン 135-20-6	Reasonably Anticipated			

## 生殖毒性

化学名	生殖毒性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた78週間混餌投与による発がん性試験において、区分2の範囲である0.15%以上(ガイダンスに基づく換算値: 75 mg/kg/day)で肝臓の小葉中心性肝細胞壊死がみられている (NTP TR100 (1978))。したがって、区分2 (肝臓)とした。新たなデータを追加したため分類が変更となった。

## 吸引性呼吸器有害性

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

利用可能な情報はない

## その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
アンモニウム N-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	データなし	データなし

残留性・分解性  
生体蓄積性利用可能な情報はない  
利用可能な情報はない

土壤中の移動性  
オゾン層への有害性

利用可能な情報はない  
利用可能な情報はない

### 13. 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

#### 汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

### 14. 輸送上の注意

#### ADR/RID(陸上)

国連番号	UN2926
品名	可燃性固体(毒性、有機物)、n.o.s (Ammonium N-nitrosophenylhydroxylamine)
国連分類	4.1
副次危険性	6.1
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当

#### IMDG(海上)

国連番号	UN2926
品名	可燃性固体(毒性、有機物)、n.o.s (Ammonium N-nitrosophenylhydroxylamine)
国連分類	4.1
副次危険性	6.1
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当

MARPOL73/78やIBCコードに則つたバルクの輸送 利用可能な情報はない

#### IATA(航空)

国連番号	UN2926
品名	可燃性固体(毒性、有機物)、n.o.s (Ammonium N-nitrosophenylhydroxylamine)
国連分類	4.1
副次危険性	6.1
容器等級	III
環境有害物質	非該当

### 15. 適用法令

#### 国際インベントリー

EINECS/ELINCS	収載
TSCA	収載

#### 国内法規

消防法	危険物第五類 ニトロソ化合物 危険等級Ⅱ
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	可燃性物質類・可燃性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	可燃性物質類・可燃性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
PRTR法	非該当
水質汚濁防止法	有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
輸出貿易管理令	非該当

### 16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等 NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

IATA危険物規則書  
RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances  
中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報  
有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック  
化学大辞典 共立出版  
等

**免責事項**

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常の実用を目的としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取り扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正される場合があります。また、安全な取り扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。

GHS分類はJIS Z7252(2014)に準拠している。\*JIS: 日本工業規格

**製品についてのご案内**

新社名へ切替を行う間、旧社名のラベル表示がある製品がお手元に届く場合がございます。

以上